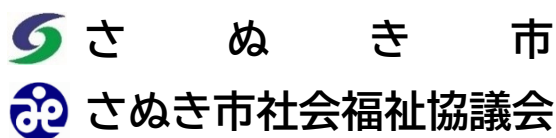




さぬき市第5期地域福祉計画 さぬき市第5期地域福祉活動計画 概要版



令和7年3月



計画の本冊は、さぬき市社会福祉協議会の「さぬき市地域福祉活動計画」ページから
ご覧いただけます。 <https://sanuki-syakyo.jp/plan/>



計画の位置付け

地域福祉計画は、社会福祉法第107条の規定に基づく「市町村地域福祉計画」として、さぬき市が策定するものです。

地域福祉活動計画は、社会福祉法第109条の規定に基づき、地域福祉の推進に取り組むための計画として、さぬき市社会福祉協議会が策定するものです。

地域福祉推進のための基盤や体制をつくる「地域福祉計画」と、それを実行するための住民の活動・行動の在り方を定める「地域福祉活動計画」を一体的に策定し、行政、住民、地域福祉活動団体、ボランティア、事業所など地域に関わるものの役割や協働を明確化し、実効性のある計画としています。

計画の期間

令和7（2025）年度から令和11（2029）年度までの5年間

基本理念

思いやりと助け合いがあふれる「いきいき福祉のまち さぬき」

～手と手を取り合い、みんなが笑顔で暮らせる地域共生社会をつくりましょう！～

基本目標

基本目標1 地域共生社会の推進

市民の誰もが地域への愛着や、福祉への関心を持てるよう、学校教育や生涯学習を通じた福祉教育を推進します。交流の場や機会の提供、地域福祉活動の担い手の発掘と育成に努めます。誰もが安心して暮らせるよう、日頃の見守り、防災力・防犯力の強化を図ります。

基本目標2 安心な暮らしづくり

市民が安心して暮らせる地域に向けて、市民や地域、社会福祉協議会、行政等が一丸となって取り組むことのできる支援体制づくりを行います。支援につながりにくい人の早期発見、地域での見守り体制と相談支援機関へつなぐ仕組みづくりの強化に努めます。

基本目標3 誰ひとり取り残さない支え合いの協働まちづくり

困難を抱えるすべての人が必要なサービスを利用できるよう、サービスに関する情報のわかりやすい提供・発信に努めるとともに、市民のニーズを把握する体制の構築を図ります。気軽に相談できる体制を整備し、高齢者や障がい者等の虐待防止等の施策拡充に取り組めます。

基本理念と施策の体系

基本理念

基本目標

取組内容

「思いやりと助け合いがあふれる「いきいき福祉のまち さぬき」
手と手を取り合い、みんなが笑顔で暮らせる地域共生社会をつくりましょう！」

1. 地域共生社会の推進



2. 安心な暮らしづくり



3. 誰ひとり取り残さない 支え合いの協働まちづくり



1. 地域活動基盤の強化と情報発信

- ①自治会の組織強化と活動の充実
- ②地域で活動する関係団体との連携強化
- ③地域福祉活動のための情報発信

2. 福祉教育の推進

- 福祉教育の充実

3. 地域福祉を支える担い手の育成

- 地域活動の人材・リーダーの育成

4. 地域福祉を担う団体の育成強化

- ①ボランティアセンターの充実
- ②ボランティア活動団体の育成と市民等の参加促進

5. 地域の支え合い活動の活性化

- ①地域住民の交流の促進
- ②生活支援体制整備事業の推進
- ③地域見守りネットワークの充実

6. 防災・防犯対策の推進

- ①地域における防犯や防災対策の強化
- ②避難行動要支援者の支援体制の充実

7. 健康づくり・生きがいづくりの推進

- ①健康づくりの推進
- ②自殺対策の推進

1. 相談支援体制・情報提供の充実

- ①身近な相談窓口の充実
- ②包括的相談支援の推進 など

2. 誰もが安心して利用できる福祉サービスの提供

- ①多様なニーズに対応した福祉サービスの充実
- ②認知症支援体制の充実

1. 権利擁護の推進

- ①成年後見制度の利用促進
- ②虐待防止
- ③サービス利用者の権利擁護

2. さぬき市再犯防止推進計画

- 再犯防止推進計画

3. 地域福祉活動を支える仕組みづくり

- ①社会福祉協議会との連携強化
- ②活動拠点の整備及び充実

津田地区



【基本コンセプト】

「みんなでつくる住みよいまち！」

～青い海と緑とあたたかい絆～みんなで育む地域力～

	地域の課題	課題に対する対応策
人材の育成	・若い世代の人材不足 ・高齢者の増加 ・後継者不足 ・役員の固定化	・地域行事やイベントを通して関係をつくる ・地域団体との連携を増やす ・若い方が参加できる機会や交流会を実施し、活動の理解を促す など
ふれあいの場づくり	・自治会機能の低下 ・高齢者世帯の増加 ・人間関係の希薄化 ・地域内での若い世代との交流不足 ・地域の子どもとの交流の場の減少	・地域交流の場づくりと活動への理解を促す ・多世代が一緒に活動する場をつくる ・子ども世代との交流の機会をつくる
安心・安全なまちづくり	・自治会機能の低下 ・高齢者の通院、買い物、ゴミ出し支援 ・災害への意識の向上	・防災訓練、防災研修を実施する ・見守り活動を推進する ・地域や自治会内で支え合いサービスを創出する ・研修会や訓練の実施を通して家庭・地域防災を考える機会を持つ

自分たちや地域でできること

自分ができること（自助）

- ・地域行事に積極的に参加する
- ・おせっかいな人になる
- ・自らあいさつをする
- ・各家庭ごとに防災備品を準備する
- ・周りへの声かけをする
- ・自治会に関心を持つ
- ・防災訓練、防災研修に参加する

近隣や地域でできること（互助・共助）

- ・地域で活動する各種団体と情報の共有や連携を持てる情報交換の場をつくる
- ・若い世代が参加しやすい環境や交流の場をつくる（スポーツ大会等）
- ・学校支援ボランティアを通して子どもたちとの交流をもつ
- ・自治会全体で参加できる行事を行う（防災訓練、ふれあいサロン、子ども会、清掃活動等）
- ・あいさつ運動を継続実施する
- ・多世代交流を検討する

など

大川地区



【基本コンセプト】

「おもいやりとやさしい心の通うまち 大川」

～出会い、ふれあい、支え合い～

	地域の課題	課題に対する対応策
支え合いの 仕組みづくり	・隣近所の関係が希薄 ・通院・外出が困難 ・空き家の増加 ・高齢者のゴミ出し支援が必要 ・高齢者の買い物支援が必要 など	・地域の自治会館や空き家を利用した居場所をつくる ・買い物やゴミ出し、移動支援の仕組みをつくる ・移動販売を有効活用する ・困りごとを相談できる、つないでもらえる場をつくる
安心・安全な まちづくり	・近年多発する災害が不安 ・声かけ・見守りが必要 ・空き巣や詐欺が不安 ・特殊詐欺等被害防止対策が必要	・見守り隊を継続して実施する ・子どもの見守り活動の充実を図る ・防災研修、防災訓練を実施する ・防犯研修会を実施する
ふれあいの 場づくり	・老人クラブやサロンの減少 ・高齢者が多く、心配な家庭が多い ・自治会ごと、自治会内での交流が希薄 ・子どもが集まれる場所が必要 など	・地域で集える場所を確保する ・世代間交流を実施する
つながり・ 人づくり	・世話人の減少 ・後継者不足 ・後継者の養成が必要 ・指導者不足	・地域福祉を支える人材づくりを行う ・研修会等学習の機会を設ける ・既存の地域行事を通して、新たなボランティアの発掘を行う

自分たちや地域でできること

自分ができること（自助）

- ・まずは楽しいことを求めて外出する。
- ・おせっかいな人になる
- ・自らあいさつをする
- ・地域の行事に参加する
- ・周りへの声かけをする
- ・自治会に関心を持つ
- ・防災訓練、防災研修に参加する
- ・行事への参加や参加の呼びかけを行う

近隣や地域でできること（互助・共助）

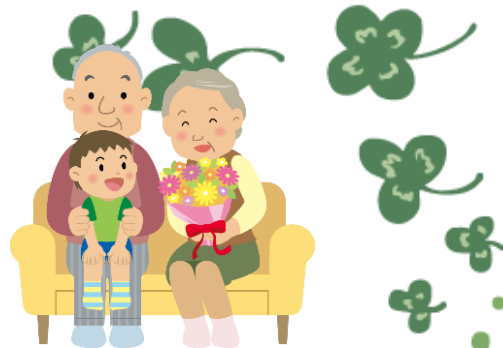
- ・南川地区（やまびこの風）に学び、松尾、富田でも移動手段や支え合いの仕組みづくりを考える
- ・移動スーパーを検討する
- ・地域の困りごとを知る
- ・大川地区防災研修会を継続実施する
- ・楽しい自治会の集まりを考える
- ・移動販売車を有効活用する
- ・地域見守り隊を拡充する
- ・あいさつ、見守り活動を拡充する
- ・サロン活動を強化する

など

志度地区



【基本コンセプト】



「ぬくもりとやさしさに支え合う町」

～人の和・思いやりで未来を開く わが町～

	地域の課題	課題に対する対応策
支え合いづくりの推進	・高齢化に伴う移動問題 ・助け合いの仕組みづくり ・地域内の人間関係が希薄化	・既存のサービスなどの情報提供 ・困りごとなどを気軽に相談できる体制づくり ・地域で行っている買い物支援の充実・拡充 など
安心・安全なまちづくりの推進	・防災意識が希薄 ・災害への備え ・災害に対応できる仕組みづくり ・地域の見守り ・緊急時への備え	・要支援者の確認 ・災害時の危険箇所・避難経路の把握 ・共通理解を図るため自治会などでの防災訓練の実施 など
交流・ふれあいの場づくりの推進	・地域に集える会や居場所の不足 ・少子・高齢化での役員等の不足 ・自治体内の絆の弱体化 ・外国の方とのコミュニケーション ・イベントや居場所までの移動問題	・多世代、外国の方などが参加できる行事の実施 ・ふれあいサロンなどの既存の居場所を活性化し、研修会などを通じた世話人や役員の育成 など
人材の育成	・高齢化による人材不足 ・若い世代の後継者の育成 ・自治会長等の役員の任期の短縮化 ・役職の兼務（負担の増加） など	・育てたい人材の早期発見・声かけ ・積極的な学習の機会づくり ・年齢を問わない活動を通じた若い担い手の育成 など

自分たちや地域でできること

自分ができること（自助）

- ・防災グッズを常備する
- ・危険箇所の把握をする
- ・隣近所へのあいさつや声かけをする
- ・参加しやすいように声かけをする
- ・地域からの呼びかけ・行事などに積極的に参加する
- ・地域の良いところをPRする（SNSの活用）

近隣や地域でできること（互助・共助）

- ・各地域で移動支援について検討する
- ・日頃から近隣などにあいさつや声かけをして顔の見える関係づくりを進める
- ・有償を含むボランティアなどの仕組みづくりを検討する
- ・高齢者・一人暮らし・子どもの登下校時など見守り活動を実施する
- ・自治会ごとの防災訓練を実施し、共通理解を図る

など

寒川地区



【基本コンセプト】

「温もりを感じるまち」～人も地域も元気な町に～

	地域の課題	課題に対する対応策
交流支え合い 活動の推進	- 子どもとの交流不足（地域の人との） - 地域住民同士の関係の希薄化 - 世代間交流の場がないこと - 自治会未加入者の増加 - コロナ禍後の行事等再開 など	- 幅広い世代（子どもから高齢者）が参加したいと思える場づくりを検討していく - あいさつからコミュニケーションを図る - 自分から進んで行事に参加する など
地域情報の 共有と福祉 情報発信	- 情報を共有する仕組みがないこと（正確な情報を迅速に提供する） - 個人情報について保護のみが優先され、有効活用できていない、いろいろな活動に制限があること など	- 安心シートや個別避難計画等の事業について知る - 安心シートや個別避難計画等の事業を通して、高齢者や要援護者と関係を構築していく
地域福祉を 支える担い手 の育成	- 自治会離れ、不参加 - 自治会活動の必要性を感じていないこと - 役員等の後継者育成 60歳代の参加が困難 など	- 家庭内で地域について関心を持ち、隣近所とも付き合いを密にしていく - 自治会内で地域の課題を共有する場を持ち、自治会員皆が地域課題について考える機会を増やす - 自治会、地域内で次世代の担い手育成として声掛けしていく
防災・防犯 対策の推進	- 空き家の増加（管理困難） - 空き家増加に伴う草木管理 - 山林、田畑の管理が困難 - 災害、防災に対する意識低下	- 空き家の有効活用を地域で考えてみる - 防災訓練へ積極的に参加する - 自治会単位での危険箇所の調査や防災マップ作成を推進する

自分たちや地域でできること

自分ができること（自助）

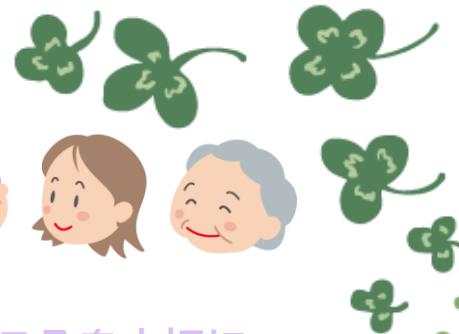
- ・地域行事に積極的に参加する。
- ・顔の見える近所づきあいに努める
- ・地域行事、研修会に積極的に参加する
- ・家族で防災について話し合う
- ・友人、知人を行事等に誘う
- ・安心シートの作成・普及に努める

近隣や地域でできること（互助・共助）

- ・自治会活動の活性化について考える
- ・楽しくお得感のあるイベント開催を推奨する
- ・花いっぱい運動推進でふれあいの場づくりを推進する
- ・個別避難計画作成の協力、PR活動を推進する
- ・訪問時（高齢者ふれあい訪問、見守り等）での見直し更新を行う

など

長尾地区



【基本コンセプト】

「お接待のころを大切に」

文化と福祉のまち

～声をかけあい人と人が繋がる笑顔のまち～



	地域の課題	課題に対する対応策
地域 コミュニティの 普及拡大	・住民同士のつながり希薄 ・自治会離れや不参加 ・世代間交流の機会の減少 ・魅力ある居場所づくり ・コロナ禍を経て、その後の取組 など	・幅広い世代（子どもから高齢者）が参加したいと思える場をつくる ・支援の担い手不足から、まずは担い手を増やすための仲間づくりを行う ・地域全治に正しく情報が伝わる仕組みをつくる など
安全な暮らし の確保	・防犯、防災に対する意識低下 ・訓練のマンネリ化 ・広く市民を巻き込んだ防災啓発 ・防災マップの作成と更新 ・空き家、休耕田の増加	・空き家の有効活用を地域で考えてみる ・防災訓練へ積極的に参加する ・自治会単位での危険箇所の調査や防災マップづくりの推進に努める など
生涯を通じた 健康・生きがい づくり	・若い世代との接点が希薄 ・住民同士の関係希薄（無関心） ・世代間交流の機会の減少 ・生涯学習の機会が少ないこと ・高齢者の参加が困難 ・コロナ禍を経て、その後の活動	・自分の周りの地域を知る ・地域の誰もが参加できるイベントを企画し、実施する ・若い世代へ地域の歴史や良いところを知ってもらう
地域福祉を 支える担い手 の育成	・地域リーダーの人材不足 ・高齢化による担い手不足 ・若年世代との接点希薄 ・福祉委員活動の未認知 など	・地域について関心を持ち、隣近所とも付き合いを密にしていく ・研修会や勉強会を通して人材育成を行う ・担い手に対しての有償化の検討を行う など

自分たちや地域でできること

自分ができること（自助）

- ・自治会内で顔を合わす機会を増やし、地域の課題を共有する
- ・支援の担い手不足から、まずは担い手を増やすための仲間をつくる
- ・家庭内で防災に関心を持つ
- ・地域行事、研修会に積極的に参加する
- ・知人、近隣の方などに声かけし誘い合わせて行事等に参加する

近隣や地域でできること（互助・共助）

- ・あいさつ運動の充実を図る
- ・SNSを活用した地域、イベントPRを行なう
- ・高齢者のみならず地域住民誰もが気軽に話ができる機会を増やす
- ・新規サロンの掘り起こしや既存サロンを継続していくための勉強会の企画、実施する
- ・防災・防犯をキーワードとし、地域の中高生や消防団などの団体とのつながりをつくる
- ・地域での安否確認訓練の実施、充実を図る
- ・コロナ禍で中止になっていた事業、イベントの再開をする など